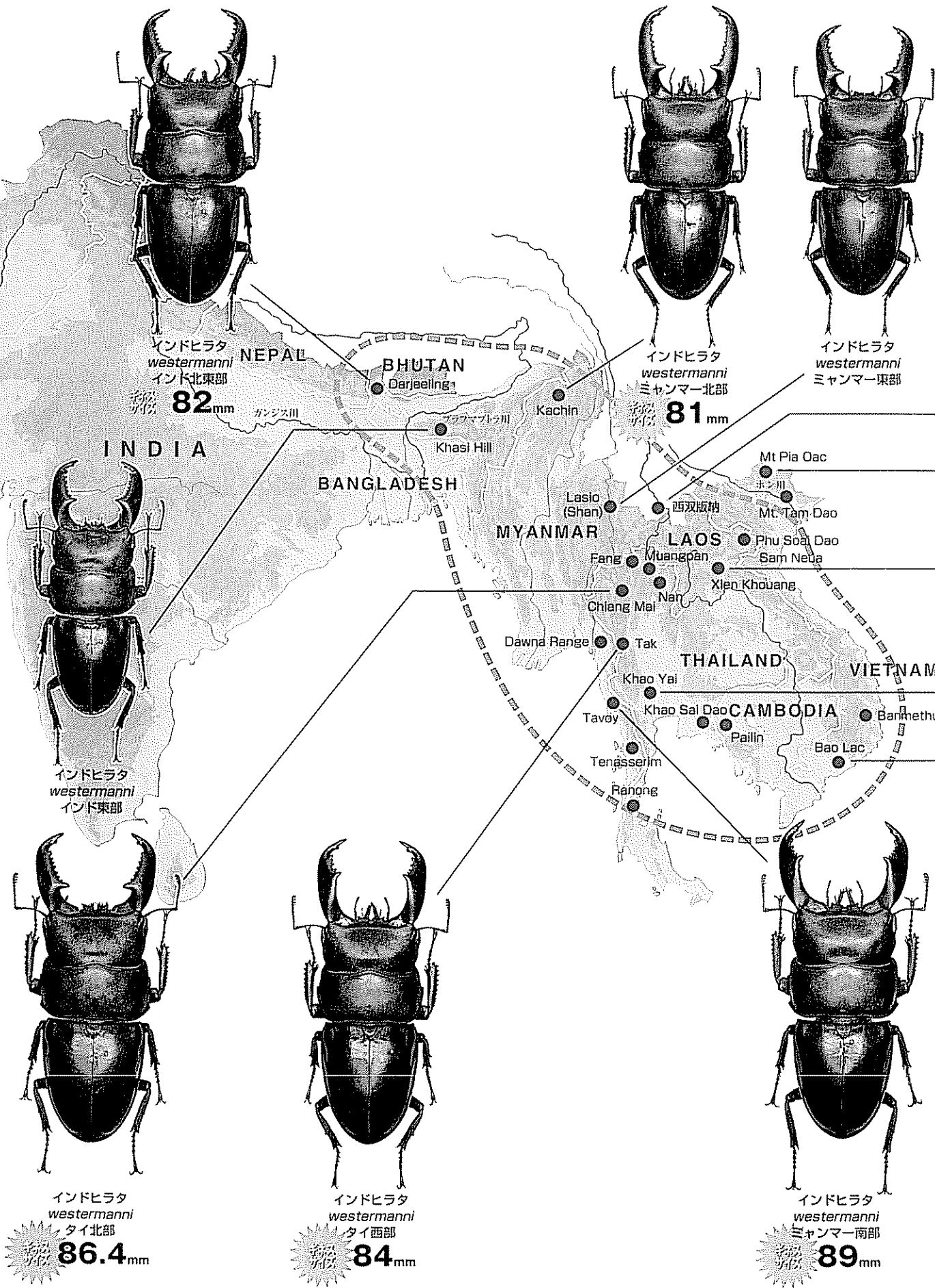


インドシナ半島～インドの ヒラタクワガタ



アッサムを原産地として記載された *westermanni* は、インドシナ半島からインド北東部にかけての広大な地域に分布している。中国の *platymelus* に比べて、大あごが短く、すんぐりとした印象を受ける亜種で、基本的には内歯は中央より下に位置する。

東から見ていくと、ベトナム南部のものは、たしかにホン川以北の Tamdao 産とは異なり、タイ北部の個体に似ている。カンボジア産も 59mm のみを1頭見ただけだが、南ベトナムのものによく似ている。

ラオス中部産とミャンマー北部産のものは、*westermanni* の中では、もっとも大あごの長い型で、*platymelus* にやや近い印象を受ける。ラオス北部と隣接している中国雲南省の西双版纳で日本人により採集された巨大な♂（87mm）も、やはりラオス産に近い。

チェンマイ付近などのタイ北部産とインド北東部産は、もっとも大あごが短い型で、*westermanni* の基本型となる。

大あごの内歯が中央より上に位置する個体は、タイのナン（Nan）やタク（Tak）、ミャンマーのシャン州北部（N. Shan）、カチン（Kachin）、テナセリム（Tenasserim）などに出現し、とくにテナセリムの個体の中には頭部が大きく、大あごが発達し、体の光沢も強いなど、一見 *titanus* に似た個体も出現して興味深い。しかし、これに近い個体は、ラオスのプーソイダオ（Phu Soai Dao）やタイ北部の Muangpan 産のものにも見られたし、マレー半島のつけ根にあたるラノン（Ranong）産は大あごの短い *westermanni* だったので、このテナセリム産もとりあえずは同じ亜種に含めておく。テナセリムは、オウゴンオニクワガタが分布するなど、マレー半島系の昆虫が入り込んでいる地域なので、この地域のヒラタにはマレー半島系の形質が多少出ているのかもしれない。

マレー半島も先端部になると、ヒラタはインドネシア系の *titanus* となる。